

第 5 期定時株主総会 質疑応答要約

この質疑応答要約は、平成 28 年 6 月 26 日（日）に開催した当社第 5 期定時株主総会において、出席者の皆様からいただいたご質問とその回答を要約したものです。弊社代表執行役社長の鬼頭、執行役（財務・IR 担当）の山本、執行役の高野より回答させていただきました。

【Q1】 貸株サービスについて、他社よりもより良いサービスを提供していただきたい。

【A1】 当社としても他社様よりも良いものを提供したいと考えている。サービスをリリースした後も改善していきたい。

【Q2】 取締役の構成について、証券業界に強い社外取締役を入れることを提案したい。

【A2】 現時点ではこの布陣が最高であると考えているが、当社の事業戦略や事業規模に合わせて引き続き検討していく。

【Q3】 取締役候補者の中には自社株を保有していない方がいるのはなぜか。

【A3】 取締役はインサイダー情報を抱えているため、自社株取得については制限があるが、役員持株会制度を導入するなど、役員が自社株を取得できる機会を増やせるよう努めている。

【Q4】 先日の英国のEU離脱に関して、市場は大混乱しているが、その点について、社長のこれからの展望を聞きたい。

【A4】 不安定な相場が続くので、資金確保・リスク管理はしっかり対応していく。英国がどういった形でEUから離脱するか等については、今後協議されていくので、当該内容が当社グループに与える影響をしっかりと見極める必要があると考えている。

【Q5】 取扱商品が増えてくると、画面構成が複雑になり、使い勝手が悪くなる会社が多いので、そうならないように気をつけてほしい。

【A5】 ご意見として承る。お客様の意見を取り入れ、使いやすいUI・取引画面を提供することは、当社が強みとしているところ。

【Q6】 GMOクリック証券の口座において、買い上がりに該当してしまい、取引が無期限制限となっている。無期限の取引停止は厳しすぎるので見直してもらいたい。

【A6】 証券取引においては、各種関連法令が多く、法令遵守は経営上の非常に重要な要素である。徹底できないと株主を始めとするステークホルダーの期待に添うことができない。よってご理解いただきたい。

-
- 【Q7】 地方市場の取扱いについて、進捗があれば教えてほしい。
- 【A7】 コストに比べると地方市場の取引高は非常に小さいため、現時点では地方市場よりも株式やCFDへ注力すべきと判断した。しかし、No.1を目指す過程の中で、将来的に取扱う可能性はある。
-
- 【Q8】 野村・大和、カブドットコムやマネックスなどがいる中で、どうやって株式の顧客数を増やそうと考えているのか。
- 【A8】 商品ラインナップのビハインドは原因の1つであると思うので、投信や貸株、アライアンスのロボアドバイザー、クラウドファンディングでお客様を呼び込み、預かり資産を増やしていく。
-
- 【Q9】 株式取引において、法人口座の開設はどうなっているのか。
- 【A9】 法人口座開設については、システム的に難しい部分もあるが、前向きに検討を始めている。
-
- 【Q10】 香港の子会社についてももう少し詳しく説明してほしい。
- 【A10】 日本の人口減少を考えると、国内に留まらず、海外に展開していく必要があり、香港の子会社を設立した。中国のマーケットの大きさ・成長力に期待しており、ロンドンの子会社との連携やZ.comブランドを活用して、シェアを伸ばしていきたい。
-
- 【Q11】 GMOクリック証券の広告で使われているキャッチコピー「Life is ~」について、海外の方が不快感を示すことがあるので、今後はそういった目線でも社内チェックをしたほうが良い。
- 【A11】 ご意見として承る。
-
- 【Q12】 営業収益 290 億円という数字において、株式、FX、CFD、その他の内訳を教えてください。
- 【A12】 受入手数料が株式や先物・OP等による収益、金融収益が信用取引による金利収入、トレーディング損益が店頭FX、外為OP、CFD等による収益であり、その大半が店頭FXによるものである。
-
- 【Q13】 株価が長期に低迷しているが、株価対策についてお聞きしたい。親会社による売却がどうなるかも懸念点だ。また、スマホだと優待画面が表示されないので表示できるようにしてほしい。
- 【A13】 株価そのものについてはマーケットがあるので直接的なコメントは差し控えたい。当社の時価総額を考えた時に流動性がポイントになってくるが、親会社による売却は現時点において決定している事実はない。成長することによって株価を上げることに尽きると考えており、今後利益をもっと出していくよう努める。スマホによる優待画面表示については、検討していく。
-
- 【Q14】 英国でのビジネスだが、KPIはどのような進捗になっているのか。EU離脱の影響はないのか。
- 【A14】 当社グループへの影響は非常に小さいため、そこに関するリスクはあまりない。KPI等のビジネスの数字は軽微ということで開示していないが、それは、まだそこまで成長していないことの裏返しで

もある。海外でビジネスを成功させるのは難しいが、チャレンジは重要であると考えているため、業績に影響を与えない程度に投資をし続け、勝ちパターンを見つけたい。

【Q15】 即日入金はあるが、即日出金ができない。他社ではできるようになっているので、改善してほしい。

【A15】 即日出金可能な他社を調査し、検討していく。

【Q16】 鬼頭社長ばかりが発言しているが、新任の方含め、取締役候補者全員から、自分の役割について成果を出しますというコメントをいただきたい。

【A16】 取締役候補者それぞれの役割については、招集ご通知の参考資料に記載させていただいており、当該内容で足りると考える。

【Q17】 英国がEUから離脱した場合、金融センターを中心としたロンドンの地位が危うくなるという話があるが、そういったリスクに対する考えを聞きたい。

【A17】 EU離脱まで今後2年間かかるので、逐次情報を収集し、総合的に判断していく。

【Q18】 FXにおいては他社も顧客にとって有利なスプレッド、スワップポイントを提供している。スプレッドとスワップポイントをどのように決定しているのか教えてほしい。

【A18】 インターネットのビジネスにおける成功は、サービスの安さと使いやすさの実現に尽きると考えている。他社の状況は常に監視しており、常に他社より優位になるよう努めている。

【A19】 海外進出の前提として日本が人口減社会に入っていると仰っていたが、人口減社会は全く関係ないと思っている。ネットを使っている方に対してどうアプローチするのかという点が重要である。

【Q19】 ご意見として承る。